

SSRI

Give me a break !

ちよつと一言

## ウクライナ侵攻でのロシアの敗北（その2）

### ＝ 頼りにならない装備の備蓄 ＝

藤岡智和

ロシアは冷戦時代に製造した戦車を数千両、一説では1万数千両保管していると言われ、いざとなればこれをウクライナの戦場に投入できるとの論調もあったが、果たしてこれらの戦車が使えるであろうか。

多くの費用をかけてモスボール処理され、それなりの施設内に保管されているのであればいざ知らず、冷戦終了後30年以上も野晒しになっていた戦車は、地金のままである履帯は錆付き、エンジンの中ではオイルが変質し、グリスは固化して動かず、グリスアップしようにもニップルが詰まってしまうはずで、これを使えるようにするには全体を分解してフルオーバーする必要がある、そんなことをしているくらいであれば新車を製造した方が早いことになる。

弾薬等についてはどうであろう。

砲弾などは化学的に安定した TNT 爆薬を炸薬としているため長期の保存に耐えられるが、ニトロセルローズなどを使用している装薬（発射薬）は30年以上持つとは思えない。

ロケット弾についても弾頭は大丈夫としてもコンポジット燃料などを用いた推進薬は長期保存でロケット燃料にヒビや亀裂が入り、発射時や発射直後に過早燃焼を起こして爆発する危険がある。

ロシア軍から鹵獲した北朝鮮のロケット弾を発射したウクライナ軍兵士が「北朝鮮のロケット弾は不発や爆発があって使えない」と言っていたのが報じられたが、それは単に古くなって本来使用できない弾であった可能性がある。

即ち、ロシア軍が30年以上備蓄（放置？）していた兵器は殆ど使えないと見て良いだろう。

（2023年8月10日）